

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

事業名	一般国道192号 <small>とくしまみなみかんじょう</small> 徳島南環状道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県徳島市国府町観音寺 <small>とくしまけん とくしましこくふちょうかんおんじ</small> 至：徳島県徳島市八万町大野 <small>とくしまけん とくしましはちまんちょうおおの</small>			延長	9.5km
事業概要					
<p>一般国道192号は、愛媛県西条市を起点とし、三好市・美馬市・吉野川市等の吉野川沿岸の各市町を経由して徳島市に至る総延長約99kmの主要幹線道路であり、沿線地域の産業経済を支える大動脈であるとともに、通勤や余暇活動などの日常生活に欠かせない生活道路としての役割も併せ持つ重要な路線である。徳島南環状道路は、「徳島外環状道路」の一部であり、徳島市中心部の通過交通を排除し、市街地流入交通の迂回・分散を図ることで、徳島市内で慢性的に発生している渋滞を緩和し、地域の活性化に大きく寄与する地域高規格道路である。</p>					
S61年度事業化	S60年度都市計画決定 (H16年度変更)	H元年度用地着手	H7年度工事着手		
全体事業費	約1,191億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約52%	供用済延長	5.9km
計画交通量	21,000～45,800 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)  (残事業)	総費用 (残事業)/(事業全体) 475/1,589 億円 事業費：436/1,535 億円 維持管理費：39/ 54 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,333/1,821 億円 走行時間短縮便益：1,065/1,479 億円 走行経費減少便益：193/ 249 億円 交通事故減少便益：75/ 93億円	基準年  令和3年	
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C= 1.01～1.2 (交通量±10%) (残事業) B/C= 2.4～3.0 (交通量±10%)                  事業費：B/C= 1.1～1.2 (事業費±10%) B/C= 2.6～3.1 (事業費±10%)                  事業期間：B/C= 1.1～1.2 (事業期間±20%) B/C= 2.6～3.0 (事業期間±20%)</p>				
事業の効果等					
<p>①円滑なモビリティの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現道等の年間渋滞時間損失の削減が見込まれる。</li> <li>・現道等の旅行速度の改善が見込まれる。</li> <li>・徳島市中心部の渋滞緩和による定時性確保など路線バスの利便性向上が見込まれる。</li> <li>・JR 徳島駅（特急停車駅）や徳島阿波おどり空港（共用飛行場）への所要時間短縮が見込まれる。</li> </ul> <p>②物流効率化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島市以西から徳島小松島港（重要港湾）への所要時間が短縮し物流の効率化を支援。</li> </ul> <p>③国土・地域ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域高規格道路「徳島環状道路」の一部を形成する。</li> <li>・日常活動圏中心都市である徳島市への所要時間短縮が見込まれる。</li> </ul> <p>④個性ある地域の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県を代表する大規模イベントである「阿波おどり」を支援する。</li> <li>・「阿波おどり会館」、「アスティとくしま」などの観光施設へのアクセス向上が期待される。</li> </ul> <p>⑤安全で安心できるくらしの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三次医療施設（徳島大学病院、徳島県立中央病院）への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる。</li> </ul> <p>⑥安全な生活環境の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島市内の交通事故件数の減少が期待される。</li> </ul> <p>⑦災害への備え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島南環状道路は津波浸水の被害を受けないことから、津波襲来時においても東西の交通が確保され、第1次緊急輸送道路として、市内中心部や県南地域への迅速な救助救援活動、救助物資の輸送等が可能。</li> </ul> <p>⑧地球環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2 排出量の削減が見込まれる。</li> </ul> <p>⑨生活環境の改善・保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NOX、SPM 排出量の削減が見込まれる。</li> <li>・景観に配慮した整備により、道路機能を確保するだけにとどまらず、道路空間の有効な利活用やまちなみと一体になった空間の形成に寄与する。</li> </ul>					

⑩その他

・県道徳島環状線と一体的に整備することで徳島環状道路を形成する。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等

・徳島県、徳島市、徳島環状道路建設促進期成同盟会、国道 192 号吉野川市・徳島市間整備促進期成同盟会などより本事業の整備促進について、積極的な要望活動が続けられている。

徳島県知事の見解

・「徳島南環状道路」の事業を継続するという「対応方針（原案）案」については、異議ありません。  
 「徳島南環状道路」は、徳島市の中心部を通過する交通や市街地に流入する交通を円滑に処理し、市街地及びその周辺地域における慢性化した交通渋滞の緩和や地域経済の活性化、日常生活における交通の利便性・安全性の向上に大きく寄与する地域高規格道路であり、本県発展のために、なくてはならない道路であります。  
 既に供用された区間と並行する県道や交差点では、交通量が減少するなどの効果が発現されており、整備による市街地の渋滞緩和や定時性の確保が期待されます。このため、引き続き、コスト縮減に努めつつ、残る未供用区間の早期整備を図り、一日も早い全線供用に向け、事業の推進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・平成 23 年 3 月 (主) 徳島環状線 川内町大松～平石 延長 1.3km 開通
- ・平成 24 年 4 月 (主) 徳島環状線 川内町平石～住吉 延長 3.7km 開通
- ・平成 27 年 3 月 徳島自動車道 鳴門 JCT～徳島 IC 延長 10.9km 開通
- ・平成 27 年 3 月 徳島自動車道 松茂スマート IC 開通
- ・平成 27 年 3 月 (主) 徳島環状線 安宅 2 丁目～阿波しらさぎ大橋南詰 (南向き) 延長 0.95km 開通
- ・平成 27 年 4 月 四国横断自動車道 徳島津田ハーフ IC 連結許可
- ・平成 28 年 3 月 徳島小松島港津田地区地域活性化計画策定 (徳島県)
- ・平成 28 年 4 月 四国横断自動車道 徳島津田 IC 事業化
- ・平成 31 年 3 月 高松自動車道 (鳴門 JCT～高松市境間) 全線 4 車線化開通
- ・平成 31 年 3 月 (主) 徳島環状線 阿波しらさぎ大橋南詰～安宅 2 丁目 (北向き) 延長 0.94km 開通
- ・令和 1 年 9 月 四国横断自動車道 立江櫛淵 IC (仮称) 連結許可
- ・令和 2 年 10 月 四国横断自動車道 徳島津田フル IC 連結許可
- ・令和 3 年 3 月 (主) 徳島環状線 新浜本町～八万町大野 側道部 4 車線化 延長 2.0km 開通
- ・令和 3 年 3 月 四国横断自動車道 徳島津田 IC～徳島沖洲 IC 延長 2.4km 開通

事業の進捗状況、残事業の内容等

・用地進捗率約 98%、事業進捗率約 52% (令和 3 年 3 月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・調査設計、用地買収、工事を推進中

施設の構造や工法の変更等

・今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

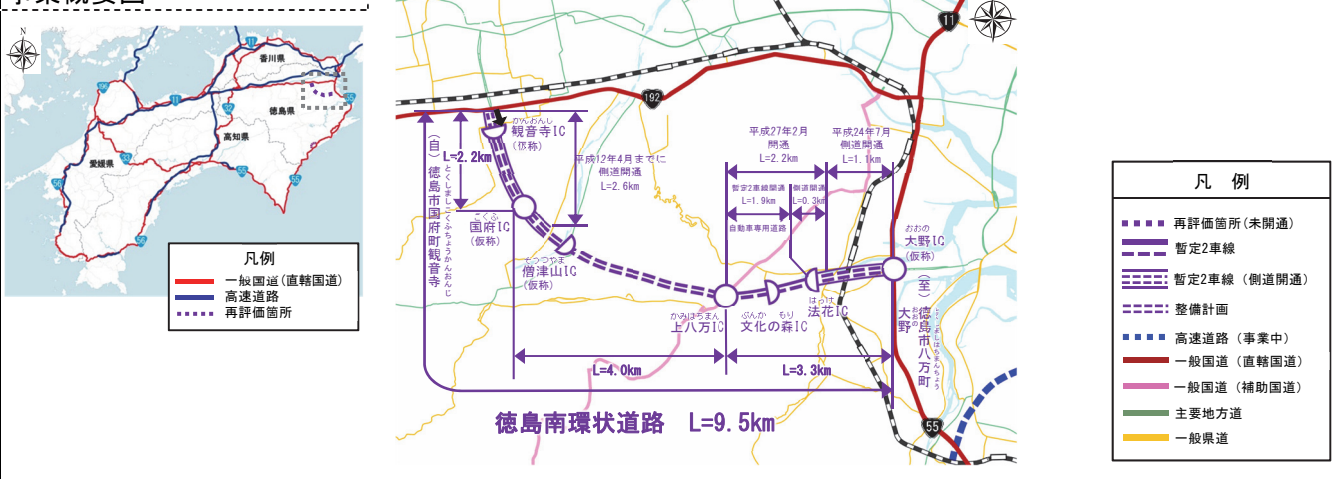
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

・以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。